

## 施策改善シートの詳細(県民評価者に記載いただいた「改善提案シート」を課題・提案内容等により分類)

※複数の提案に跨るものについては、いずれかの提案内容に分類しています。

### 5班 新たな成長産業の育成

課題	県が何をする	誰が	何をする	誰が	何をする
本県ならではの新たな産業の育成、企業誘致・マッチングの推進					
ICT産業の目的を具体的に絞る	ICTの位置づけを具体化する	県・企業	重点的施策に優先順位をつける		
災害ボランティアの負担減少	コロナ対策でボランティア人員不足対応、床下土砂回収に無人小型ショベルカーの開発				
産業の活性化	先端企業誘致(働き場所の確保)、既存企業の新しい分野への依頼				
産業の活性化の方向性	先端企業の誘致	企業	ロボット導入による効率化向上		
産業の活性化の方向性	先端企業誘致(地域指定、免税、土地確保、デジタルの基盤整備)、企業誘致の緩急整備、人材育成、ネットワーク				
産業の活性化の方向性	独自性を選択する	企業	情報と生産をつなぐツールを活用する		
静岡県ならではの魅力づくりの産業育成	育成産業の確保、補助金、育成産業候補の環境整備、静岡のよさのPR活動				
食の安全性向上、品質高付加価値商品化	不良品排除、出荷作業の効率向上をICT技能を利用する高速自動運転化の工場				
他地域への波及	企業同士のマッチング	企業	他企業とのつながりを持ち、不足分を助け合う	市町村	健よりも地域についてしているので提案をする
農業・工業と情報産業とのマッチング	県の企業の情報交換の場を提供する	企業	自社の技術、ノウハウ、欲しているニーズを県に提供する		
農業トラクターの無人化で労災減少	高齢農業就労者の死亡事故減少のため、センター利用による無人トラクターの開発促進				
モノづくりに付加価値を付ける	歴史、先端技術の専門知識を持つ人材育成、又は首都圏から招致する	県	重点的に行っている施策をPRする		
産業の活性化	先端企業の誘致と離脱(撤退)防止	市町・地域	先端企業の誘致と離脱(撤退)防止	企業	県内出身ICT人材の積極的な採用
産業の活性化の方向性	静岡県にしかない産業を伸ばす				
産業の活性化の方向性	企業誘致に頼らず、すでに各市町村が持つ、特色やノウハウを連携させて県内で一つの新産業を創出する				
静岡県内外との連携	県内の市の強み、弱みを集約				
他地域への波及(静岡の魅力を伝え流出を抑えるには)	静岡県ならではの付加価値を見出す	企業	企業の情報提供や学生と関わる場を増やす、今よりもっと大学と連携して、積極的に大学生と関わる場を作るべきである		
ICT人材の確保・育成の強化					
CIT人材の確保・育成	教育委員会と連携して小中学校でのプログラミング教育の普及 県民への静岡の強みのPRをもっと企業の宣伝にすべき(知らない人が多過ぎ)	市町村	ICTサービスを行う企業やICT人材育成事業を行う企業に補助金交付、駅前のサテライトオフィス建設	個人	テレワーク可能な静岡の企業に就活をし、首都圏に住んでいる人も働けるように、静岡の強みに興味をもつ学生が静岡の企業に就職する 学校だけではなく、塾などで、ICTについて学ぶ
ICT人材の育成	教育現場への更なる働きかけ	教育委員会	ICT教育の観点から教育方法の見直しをする	企業	教育とのつながりを持つや、イベントへの参加による個人とのつながりを持つ
ICT人材の育成を図る	小学生のころからプログラミングの基礎知識の学習教室実施、社会人のパソコン教室の実施				
ICT人材の確保	魅力あるふじの国づくり、静岡を好きになるような環境づくり				
ICT人材の確保・育成	中小企業経営者に対するICT、IOTの活用セミナー、具体的に何ができるかなど	企業	経営者がまずICT技術で何ができるか(どう事業に役立つか)を知ること → 従業員レベルで導入		

課題	県が何をする	誰が	何を	誰が	何を
ICT人材の確保・育成	小学校低学年からの教育				
ICT人材の確保・育成	県内企業のICT環境が向上するよう貢献できる人材の確保をめぐす(ICT集積地をめぐすというより)	県・市町	女性のICT人材育成に力を入れるべき、ICTは女性のライフスタイルには働き方として合っている、また、女性は地元志向が強い人も多い、小中学生の頃から女性の就職としてICT職の魅力伝えるようにする		
ICT人材の確保・育成	中小企業における人材活用支援、ネットワーク整備				
ICT人材の確保・育成	幼児からパソコン教育を行い、まずは慣れさせる(学校教育を通じて)				
ICT人材の確保・育成	駅周辺などの便利なところにオフィスを準備して、おしゃれに働ける場を作り、優秀な方々に働いていただけるようにする、色々な人々に目をとめてもらえるようにする				
ICT人材の確保・育成	人材育成の場を増やす(学校等)、若者向けイベント等を増し、興味を持たせる				
ICT人材の流出防止	静岡の企業がどういった人材を必要としているかをアピール、宣伝	企業	ニーズや必要とする人材をより明確にした採用活用		
ICT人材の流出防止	Uターン生の奨学金返済免除	企業	静岡へIT企業を設ける		
ICT人材の流出防止	企業と協力してイベントや説明会	企業	企業同士でのやりとり、イベントの開催企画	市町村	県や企業と協力し、告知
ICT人材の流出防止	理工系学生等への企業紹介を増やす	企業	各学校への企業PRを進める		
ICT人材の育成	県民全体に対するICT講座の開講(YouTubeなどで公開講座等)	電気会社及び国	電気通信インフラの整備・強化		
ICT人材の確保・育成	企業内でのICTに関する教育の場を設ける	教育現場(学校)	ICTについて学ぶ場を設ける		
ICT人材の確保・育成	ICT人材の確保・育成の特にどこに力を入れるべきかを具体的に考える	力を入れるべきと考えた領域に関連する団体	県が力を入れるべきと考えた部分に対し、長期的な目標を設定し、具体的にどのような取り組みを行うことができるかを話し合い、実行をする、この際に、スピード感を意識すること、県民への分かりやすいPRや情報発信を行うことが重要である		
ICT人材の確保・育成	幅広い年代を対象にしたプログラミングセミナーの開催	教育機関	プログラミング教育		
ICT人材の流出防止	静岡県の魅力の発信	県民	静岡県について知る	企業	大学で学んだことなど、いかせるような場所、企業を作る
ICT人材の流出防止	必要とする人材を企業が明らかにする	県	既存産業へのサポート、起業するものへのサポート、新産業創出へのサポート		
IOT人材の流出防止	企業誘致	市町・地域	企業誘致	企業	県内出身ICT人材の積極的な採用
静岡に人材を留める、呼び戻す	議論でもあったが、キャリアを積み東京に行った後、静岡に戻ってこれるような体制作り(起業補助や受け入れ先の確保)				
人材確保・育成、流出防止	企業間転職(一時的な)マッチングを推進する、静岡県内で人を回し、育てる、県内移動の補助を出すモノ作り会社は考えが古いのので一旦辞めた人間を戻さないが、外で勉強して戻る人材がいても良いと思う				
人材の育成(パソコン)	小～高(大学)までPCの授業(プログラミングetc)を導入し、それを教えられる教師を育成する、苦手な子もいるので、あちこほれないように配慮する				
人材の流出防止	静岡県の良さをアピール(年代別)	企業	県と連携し、必要な求人情報のアピール		
トップレベルのICT人材の育成	小中高生に県内のICTに関わる企業の講演を積極的に実施する(自分が学生の頃は、自分自身が興味がなく、知ろうとしなかったため、そういう世界があることを知らせてあげるのが良いと思う)				
ビジネスパーソン向けのICT人材の育成	大学と共同でのICT講座の開講				
情報通信技術に関する能力の底上げ	小中学生へのICT教育	県	高齢者へのICT支援		

課題	県が何をする	誰が	何を	誰が	何を
新たな産業分野の取組等の積極的な情報発信					
様々な情報の発信が不足している(産業の活性化の方向性)	よりPRLしていく、企業の発信を援助	企業	イベントの参加や、セミナーの企画、強みをアピール	市町村	市町村単位でのイベントやセミナーの告知、県の情報を発信、また市町村での取組みを発信する
産業の活性化	SNS、Youtubeなどでもっとアピールすべき、医療とか地味なものが発信が難しい、企業単位では限りがあるし、カドも立つので、県が包括的に県企業・特色をアピール、県民スターを使う				
産業の活性化	恵まれた自然環境の利用、情報発信を積極的にする				
産業の活性化	静岡県の産業を内外問わずPRする(テレビ、新聞、SNS)				
他地域への波及	県内に一部地域(市役所)で成功した事例を県全体にどう広めていくかを考える必要があるため、市役所と県と派遣社員と連携する必要	市町村	政令市以外は県に認可をもらわないとならないので、特色を出した長期化できる産業活性化プランを考える必要がある	個人	それぞれの地域に得意分野があることを理解し批判しない
他地域への波及	県の優位情報をもっとPRLて行く				
若者が就職したくなる産業をつくる	静岡県の具体的な取組をPRする、施策の結果(実績)をPRする	企業	企業が付加価値をつける	県・大学	専門性の学科の選定・見直しを図る
産業の活性化の方向性	県の産業のPRを行う	地域全体	産業を活性化するために、「現時点でどの部分が不便なのか」「便利にするにはどうなったらいいか」など、産業における困りごとや課題を解決するために、立場や領域など関係なく、アイデアを自由に述べるような場が必要であると考えました。そのような場があることで、具体的な方向性も見えてくるのではないかと考えました		
若者の流出	静岡のPR活動のさらなる推進	大学教育	静岡の魅力を感じられる授業の構築		
新たな産業分野に関する情報提供	学生や県民に静岡県の産業を理解してもらう				
関連産業の集積や他産業との連携等の強化					
企業のニーズにあった戦略を取り、伸ばしていく	医療産業、ロボット産業の強い企業や研究所の更なる誘致を行い、連携を強める				
産業の活性化	健康産業のPR	企業	ICTを使った農業など		
産業の活性化	医療機器、(介護)ロボット等、強みを複合的に更に強化する、集積の強化(全方位的ではなく、数年間は一点集中)ポイントは物流もセットで考えること、東中西部の3地域同時であること、理解を得やすい	県	県/県民合同のクラウドファンディングをサポーターとする位置付けで資金、情報を募り、県民の関心を継続的に循環させる様なスキームの創設、検討。ポイントは企業にとり、利用しやす制度であること		
産業の活性化(ハード)	水がきれい、手先が器用だから、胃カメラを作るのはどうか。				
産業の活性化の方向性	医療産業の強みをアピール、医療産業とITのマッチング	個人	県のアピールをみて、若者がその関連企業に就職をめざす		
産業の活性化の方向性	シェア1位である医療品等産業を強みとして推進すべき。県民に広くシェアであることを広報する。医療分野はコロナ禍を契機にさらに求められている。県民が広く認識することにより、人材の育成確保にもつながると思う。				
その他					
U・I・Jターンをふやす	学生に限らず、広く県民に県内企業の情報・魅力を広報する。静岡県が生活の面でも魅力的であることを伝える。特に女性の働く場の確保が大切				
他地域への波及	施策レビューのように県単位でやると内容が広くうっすらとしてしまうので、各市町村毎の代表が交流する機会を作る方が良い				
若者を増やすことが重要	子育てに安心・安全な県のPRをする。娯楽産業を増やす				